



新世纪应用型高等教育
日语类课程规划教材

新世纪

基础日语教程

(高级)

新世纪应用型高等教育教材编审委员会 组编

主编 李 犇 崔万有



大连理工大学出版社
DALIAN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS



新世纪应用型高等教育
日语类课程规划教材

新世纪

基础日语教程

(高级)

新世纪应用型高等教育教材编审委员会 组编

主编 李 犇 崔万有

副主编 金 瑛 吕英华

王 昕 翁丽霞



大连理工大学出版社
DALIAN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

基础日语教程. 高级/李犇, 崔万有主编. —大连:
大连理工大学出版社, 2011. 7
新世纪应用型高等教育日语类课程规划教材
ISBN 978-7-5611-6300-9

I. ①基… II. ①李… ②崔… III. ①日语—高等学校—教材 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 122265 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84703636 传真:0411-84701466

E-mail: dulp@dulp.cn URL: <http://www.dulp.cn>

大连金华光彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 185mm×260mm	印张: 18.25	字数: 422 千字
附件: 光盘一张		印数: 1~2000
2011 年 7 月第 1 版		2011 年 7 月第 1 次印刷

责任编辑: 梁 勃

责任校对: 刘 倩

封面设计: 张 莹

ISBN 978-7-5611-6300-9

定 价: 45.00 元

前言

《基础日语教程》(高级)是新世纪应用型高等教育教材编委会组织编写的日语类课程规划教材之一,是面向高等院校日语专业的在校学生和其他各类日语学习者而编写的通用教材。

本教材的编者都是从日本留学回国并长年从事日语教学的大学教师,具有丰富的日语教学实践经验。编者以《日语专业教学大纲》和《日语国际能力考试出题标准》为依据,结合日常的教学实践和广泛调研编写了这套内容丰富、题材新颖、领域宽广、实用性较强的教材。目的是全面、系统地培养学生听、说、读、写等综合语言运用能力,使学生通过本教材的学习,不仅能够牢固掌握日语的基础语言知识和基本语言技能,并且能够独立阅读和分析文章,提高学生运用日语进行日常交际和思维的能力,从而为学生能够具备较强的翻译和写作等实际语言应用能力奠定扎实的基础。

本套教材共五册,本教材是第五册,由十五课组成。从形式上,每课的内容由课文、会话文、单词、语言表达、补充词汇以及课后练习构成;从内容上,本套教材在充分体现《日语专业教学大纲》的精神和要求的同时,也尽量兼顾符合《日语国际能力考试出题标准》。其中,初级Ⅰ对应日语国际能力考试四级水平;初级Ⅱ对应三级水平;中级Ⅰ和中级Ⅱ对应二级以及二级到一级之间的水平;高级对应一级水平。

与其他同类教材相比,本套教材具有如下特点:

一、知识性、实用性强。在本套教材编写过程中,在保证准确性的前提下,语言说明部分尽可能做到简洁明了,通俗易懂,使学习者在语言实践中掌握知识。尤其是语言表达的解释中,对相近的表达方式进行了简明的讲解,达到了帮助学习者突破学习难点的效果。

二、选材范围广,语料新颖。内容上基本涵盖语言、文化、社会、经济等领域的相关知识。并且在遵循教学大纲的同时,尽可能采用了现代日本社会、生活中常用的最新词汇,反映时代气息。

三、趣味性、实效性。课文选用了与现实生活密切相关的内容;会话文在课文内容的基础上进一步拓展和加深,并充分体现了口语的表达方式;语法解说中选取了实用性较强的例句,使学习者能够摆脱学习外语时的枯燥和单调,轻松快乐地学习。练习题的形式以及内容的安排充分考虑了各类能力测试的考核重点,达到了进一步强化和巩固知识点的目的。

为方便教师更好地开展立体化教学,本教材附赠 mp3,另配有磁带。其他配套的资料请登录 <http://www.dutpgz.cn> 下载。

尽管编者倾心而作,但书中难免有不尽如人意之处,敬请各相关应用型本科院校和读者在使用过程中给予指正,并将意见及时反馈给我们。

所有意见和建议请发往:dutpwy@163.com

欢迎访问我们的网站:<http://www.dutpgz.cn>

联系电话:0411—84707604 84706231

编者

2011年7月

本册使用说明

本教材供日语专业高年级使用。旨在帮助学生进一步巩固日语基础知识,同时强化学生对日本语言、文化、社会、经济等相关知识的扩展,进而提高学生的听、说、读、写、译的日语综合应用能力。

本册由 15 课构成,按每周 6~8 学时安排授课内容,可供 180~240 学时使用。每课内容包括:课文、生词、语法、句型、重点词讲解、练习等。本册编有 1000 多个常用单词,100 多个基本句型和语法项目。

课文部分为 3000~10000 字的文章,题材广泛,内容丰富。既有反映传统语言教学的文章,又精选出世界文坛中极具影响力并能反映日本社会文化的代表性文学名著,还有体现时代特征、接近生活的经济贸易方面的经典作品。旨在使学生在在学习语言的同时,也能加深对日本文化、社会、经济等各方面的了解和理解。

每课都设有单词表,每个词条后面的数码是音调类型,大多数是根据《新明解国语辞典》标注,所给的词义为常用词义或本课课文中所出现的词义。括号里的词语是词性的略语,具体情况如下:

(名)——名词	(代)——代词	(形)——形容词	(形動)——形容动词
(副)——副词	(連語)——词组	(接尾語)——接尾词	
(接頭語)——接头词	(助數)——量词	(自)——自动词	
(他)——他动词	(五)——五段活用动词	(一)——一段活用动词	
(サ)——サ变活用动词	(力)——力变活用动词		

编者
2011 年 7 月

目 次

第一課	友情について	1
第二課	壁と卵	19
第三課	弱者生存	37
第四課	情報時代の落とし穴	55
第五課	城の崎にて	74
第六課	伊豆の踊り子(抜粋)	92
第七課	弥生三月	109
第八課	物のこころ	128
第九課	経済学はどのような性格をもった学問か	147
第十課	地球を読む	164
第十一課	日本語の特質	179
第十二課	ボッコちゃん	199
第十三課	美しい別れ	216
第十四課	若者が文化を創造する	240
第十五課	藤野先生	257
重要文法・文型索引		274
単語索引		277

第一課

友情について

矢内原伊

本文

人生において友情ほど大切なものはなく、友人ほど尊くありがたいものではありません。このことをわたしは、おざなりな軽い気持ちでいっているのではないのです。軽い気持ちでいうなら、人生において恋愛ほど大切なものはないともいえるでしょうし、夫婦の愛ほど大切なものはないともいえるでしょうし、親子の情についても、あるいはまた仕事・勉強・健康等々、いろいろなものについて、人生においてこれほど大切なものはないといえるでしょう。これら一つ一つのものが、それぞれ人生において最も大切なものだということは、必ずしも間違っているわけではありませんが、十分に考えられた上での判断だとは思えません。むしろ、人生を形成しているさまざまな大切な要素を比較して、そのうちのどれがいちばん大切かといったことを議論しても、あまり意味のないことでしょう。どれもが大切なのです。にもかかわらずわたしは人生のさまざまな要素を考えた上で、友情ほど大切なものはない、といたいのです。一つには、それがわたしの人生でのあまりにも確かな体験で、友人の存在を何よりもありがたいことと日ごろ思っているからですし、一つにはまた、理屈で考えてみても、友情は、あらゆる人間関係の中で最も恒常的なもの、永続的なものであり、恋人・夫婦・親子・兄弟姉妹、あるいは職場その他での交際といったいろいろの関係の中でも維持されるべき基本的なものだからです。

わたしたちの人生は、結局のところさまざまな人間関係にほかなりませんが、いろいろな関係の中で、友情は特に人間的な関係です。家族のつながりや恋人総合の関係にもそれぞれ深いものがあるにしても、そういったものの中には、ある意味で動物的な要素、自然的・本能的な要素があります。これに反して友情は、人間特有の、人間でなければ持つことのできないものです。人間は社会的動物であるといわれますが、単に多数の者が集まって共同生活することが社会的であるとするならば、それは必ずしも人間特有のものではないでしょう。家族も社会も、それが人間を人間たらしめるものであるためには、友情を根底にしているものでなければならないと思われます。恋人は恋人であって同時に友人である、夫婦は夫婦であって同時に友人である、親子兄弟は親子兄弟であって同時に友人である、こういった恋人・夫婦・親子兄弟こそ、理想的な恋人・夫婦・親子兄弟ではないでしょうか。

友情がこのように人生において最も大切なものであり、すべての人間関係を成り立たせる基礎的なものであるのは、それが最も人間的な関係、本能的な欲望や打算的な利害に動かされることの最も少ない関係だからであり、心と心との親密な触れ合い、言葉では言い表せない深い共感、他のものを目的にしない純粋な信頼の気持ちだからです。友人といっても、むろんいろいろの種類があり、親しさの程度もさまざまです。しかし、ここでわたしが述べているのは、本当の友達、真の友情で結ばれた親しい友達のことです。本当に理解し合うことのできる、信頼し合うことのできる友達、そういう友達をわたしたちは常に求めています。そういう友達はそうたくさん必要ではありませんし、また実際問題としてそうたくさんはできないでしょう。

しかし、少数でもよい、一人でも二人でもよい、もしそういう友達を見出すことができれば、それはわたしたちの人生の最大の宝、生きていく上での最も大きな力と喜びを与えてくれるに違いありません。

本当の友達は、多くの場合、若いときからの年来の友人、学校時代あるいは二十歳前後のいわゆる青春時代からの友人です。大人になってから、殊に三十歳を過ぎてから、心からの親友を見出すことは、ないことはないでしょうが、なかなか困難なことです。わたしの場合でも、親友の大部分は学生時代からの友人です。だから学生時代に、あるいは二十歳前後の若いときによい友人を発見することは極めて大事なことです。なぜ若いときの友人が一生の友人になることが多く、それに比べて大人になってからでは親友ができにくいのか、このことを考えてみると、友情とは何かがかなりはっきりしてくると思います。

その人の存在だけでこちらが慰められ励まされるような友達、生涯続いて変わらない美しい友情、こういったものが若いときに作られることが多いということは、そういう若い時代には各自が素直に人生に直面しており、したがって素直な自己を曝け出して生きているので、心と心が素直に触れ合うことが多いからでしょう。言い換えれば、青春の時代にあつては、打算的・功利的な考えで人と交際することが、大人の社会に比べて少ないからでしょう。

一口に友人といっても、その種類や程度はさまざまだと前に申しましたが、世間には単に利害関係だけで結ばれている友人関係や、利害関係だけでなくごく表面的な関係だけで交際している人を友人と呼んでいる場合が、たいへん多いのです。利害関係だけで結ばれているならば、その利害関係の変化によって、今まで親友のように交際していた人どうしがたちまちかたきようになってしまうこともあるでしょう。それは決して友達とはいえません。また単に表面的なこと、例えばクラスが同じだとか、趣味が似ているとか、職場が一つだとかということによって友人になっている場合があっても、それはそれでよいでしょうが、これだけでは生涯の友人にはなれません。なぜなら、本当の友情とは心と心の触れ合

いですから、表面的なことだけでは成立せず、互いの真実をぶつけ合う素直な気持ちが必要だからです。

大人になってからは親友ができにくく、若いときにこそ真の友情を見つけることができるのは、自己の真実を裸のままで示す素直な気持ちを若い人々は持っているのに、大人になるといろいろなカラが出てしまって、自己を開き示すことが少なくなるからでしょう。ということは、友情の成立に必要なのは、必ずしも若さということではなくて、人生に対する真実な気持ちを開き示し、また、他人のそのような気持ちを受け入れる心の素直さです。言い換えれば、人生に対する真実な気持ち、自分自身に対する誠実さ、これなくしては友情は得られず、逆にまた、これさえあれば若くても若くなくても真の友情を得ることができるに違いありません。友情における相互の信頼というものは、人生に立ち向かうこの真実さを相互に認め合うことです。性格や意見がどのように違っても、外的な環境がどのように違っても、そういった相違を超えて成立するものですし、これは相互の生き方の最も深いところでの信頼ですから、生涯変わることなく続くのです。

こういう信頼は、当然、相手に対する尊敬を伴います。人生に対する真実真剣な態度ほど尊敬すべきものはないのですから、信頼が尊敬を生むのは当然です。信頼を持って人に接すれば、わたしたちはそこに自分の持っていないさまざまな長所を発見し、それを尊敬し、そこから学び、それによって励まされます。逆にまた、そのような信頼を友人から寄せられるならば、それに勝る大きな慰めと励ましはないでしょう。なぜなら、人生への真実という点での信頼は、心の最も深いところでの信頼であり、他の何ものによっても動かされることのないものだからです。人がなんといおうとも、世間がどんなに自分を誤解しようとも、友人だけは分かってくれていると思うことができるのは、なんというありがたいことでしょうか。

新しい言葉

御座なり【おぎなり】①	(名・形動)	いいかげんに物事をすませること。その場だけの間に合わせ。
議論【ぎろん】①	(名・自他サ)	互いの意見を述べて論じ合うこと。また、その内容。
恒常【こうじょう】①	(名)	一定していて変わらないこと。
永続的【えいぞくてき】①	(形動)	ある状態が長続きする。
維持【いじ】①	(名・他サ)	物事の状態をそのまま保ち続けること。
本能的【ほんのうてき】①	(形動)	生まれつきその性質をもっている。また、本能のままに行動する。

たらしめる⑤	(連語)	助動詞「たり」の未然形に助動詞「しめる」のついたもの…としてあるようにする。
根底 [こんてい] ①	(名)	物事や考え方の大本となるところ。
理想的 [りそうてき] ①	(形動)	理想にかなうさま。
欲望 [よくぼう] ①	(名)	不足を感じてこれを満たそうと強く望むこと。また、その心。
打算的 [ださんてき] ①	(形動)	何事をするにも損得を考えて行う。計算高い。
利害 [りがい] ①	(名)	利益と損害。得することと損すること。
親密 [しんみつ] ①	(名・形動)	互いの交際の深いこと。きわめて仲のよいこと。
触れ合い [ふれあい] ③	(名)	触れ合うこと。また、心を通わせあうこと。
共感 [きょうかん] ①	(名・自サ)	他人の意見や感情などにそのとおりだと感じること。また、その気持ち。
純粹 [じゅんすい] ①	(名・形動)	邪念や私欲のないこと。気持ちに打算や掛け引きのないこと。
殊に [ことに] ①	(副)	とりわけ。
各自 [かくじ] ①	(名)	それぞれの人。めいめい。おのおの。
直面 [ちよくめん] ①	(名・自サ)	物事に直接対すること。
曝け出す [さらけだす] ④	(他五)	隠すところなく、すべてを現す。ありのままを見せる。
功利 [こうり] ①	(名)	功名と利得。功績と利益。また、功績や利益を上げること。
表面 [ひょうめん] ③	(名)	物事の外から見える部分。表立つところ。うわべ。
ぶつけ合う [ぶつけあう] ④	(他五)	物、言葉などを激しく投げつけ合う。打ちつけ合う。
誠実 [せいじつ] ①	(名・形動)	私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対すること。
認め合う [みとめあう] ⑤	(他五)	お互いに認めること。
相違 [そうい] ①	(名・自サ)	二つのものの間に違いがあること。

1 文の主題

文は、通常、主題と述部とに分けることができる。

主題：その文が何について述べているかを示す部分

述部：主題について述べている部分

〔例〕 太郎は 学生です。 花子は 昨日次郎に傘を借りた。
 主題 述部 主題 述部

主題を表す最も代表的なものは「は」であるが、その他に次のようなものもある。

も、こそ、でも、だって、なんか、とは(というのは)、って、と言え(って言え
 ば)、ときたら、と言えども、てば(ってば)、たら(ったら)、なら(ば)、しも、さえ、
 すら、とて、なり(なりと)、なんか(なんて)

使用例をいくつか下に挙げておく。

なら：対話の相手が導入した話題を主題として情報を伝える。

A：お母さん、どこ？

B：お母さんなら、庭で草むしりしてたよ。

と言え(ば)/って言え(ば)：話題の転換を示す。

A：高校の卒業アルバムが出てきたよ。なつかしいねー。

B：高校って言えば、あのおんぼろ校舎どうなっただろう。

って：主題として提示した事柄の説明や定義をする。

看護婦って、大変な職業なんです。

A：じゃ、コンピュータをシャットダウンしてください。

B：シャットダウンするってどういう意味ですか？

ったら：行動の観察に基づいて評価をする場合に使う。非難の意味合いを持つことが
 多い。

この子ったら、案外やさしい子なんですよ。

ねえ、お父さん、お父さんったら、聞いているの？

2 主題になるための条件

主題として提示されている名詞の指し示す対象が、場面、文脈、常識などから、特
 定できなければならない。

〔例〕一人の女の子が立っていた。その子は子猫を抱いている。

(「その子」が指示するものは前の文にある「一人の女の子」。)

ブラジルではポルトガル語が話されている。

(「ブラジル」が指示するものは常識から特定できる。)

指し示す対象が特定できないものは主題にすることができない。

[例](×)一人の女の子は子猫を抱いている。

(×)誰はあなたにぶつかったんですか。

(选自《日本文法整理读本》 井口厚夫 井口裕子)

文 型

1 (名詞・動詞「た形」)上(で)…

何かをした後で、それに基づいて次の動作を行うという意味。「～してから」の意味に類似する。

○品を見た上で買うかどうか決める。

看了货之后再决定是否买。

○彼がそうしたのもよく考えた上でのことだろう。

他那样做也是仔细考虑后决定的吧。

○そのことについては、調査の上、お答えします。

关于那件事，调查之后给予答复。

○文法をしっかりと勉強した上で、初めて新聞が読めるようになる。

扎实地学习语法之后，能读报纸了。

2 (名詞と形容動詞の語幹・動詞と形容詞の連体形)にもかかわらず…

前文の内容の順当な帰結とは異なる内容を下に続ける場合に用いられる。つまり、前述の事柄を受けて、それと相反する行動を取ったり或いは予想されることとは違う結果になる意を表す。「～であるのに」の意味に類似する。

○彼は病気であるにもかかわらず、毎日遅くまで残業をしている。

他尽管病了，但还是每天加班到很晚。

○その店は人手不足にもかかわらず、いつも行き届いたサービスをしてくれる。

尽管那家店人手不够，但总是提供很周到的服务。

○あれだけ注意したにもかかわらず、また同じミスを犯している。

提醒了那么多次，但还是犯同样的错误。

○彼は雨にもかかわらず出かけた。

虽然下着雨，但他还是出去了。

3 (名詞と形容動詞の語幹・動詞と形容詞の連体形)にほかならない

原因や理由がそれ以外のものでは決してない。まさしくそうであると肯定する時に使われる。

○この成果はあなたの努力の結果にほかならない。

这个成果无非是你努力的结果。

○彼の発言は不満の表れにほかならない。

他的发言无非是发泄不满。

○私が大学に受からなかったのは、運が悪かったからにほかならない。

我没考上大学，就是因为我运气不好。

○先生が皆を厳しく注意するのは、みなさんを愛しているにほかならない。

老师严格要求你们，无非是因为爱你们。

4 (名詞と形容動詞の語幹・動詞と形容詞の連体形)にしても…

既定条件の逆説を表す表現。後ろにくる内容は否定的なもの、話す人の驚き、意外、不満、非難などの気持ちを表す文が多い。

○いくら忙しいにしても、電話ぐらいくれる時間があるだろう。

再怎么忙，给我打个电话的功夫还是有的吧。

○忙しくて会議に出席できなかったにしても、予め連絡すべきだった。

即使很忙不能出席会议，也应该事先联系一下。

○若干の問題があるにしても、この作品は一読の値がある。

尽管有若干问题，但这部作品还是值得一读。

○親がお金持ちであるにしても、お金を無駄に使ってもいいというわけじゃない。

就算父母是有钱人，也不应该随意浪费钱。

5 (名詞と形容動詞の語幹・動詞と形容詞の連体形)に反して…

「～と反対に」。また、「ルールなどに従わないで」という意味で使う。動詞「反する」から出た形。「～」には、予想、期待、命令、意図などの言葉が来ることが多い。

○みんなの予想に反してその実験は失敗してしまった。

与大家的预料相反，那项实验失败了。

○予報に反して、今年の冬はとても暖かかった。

与预报相反，今年的冬天很暖和。

○道徳に反する行為。

违反道德的行为。

○あの学生は学校の校則に反して、一週間ぐらい学校を休んだ。

那个学生违反校规，旷课了一星期左右。

言葉の使い方

1 尊い「とうとい」(形)

(1)崇高で近寄りがたい。神聖である。また、高貴である。たつとい。

○尊いお方。/高贵的人。

○尊い神仏。/神圣的神佛。

○尊い寺。/神圣的寺庙。

(2)きわめて価値が高い。非常に貴重である。たつとい。

○尊い体験。/珍贵的经验。

○尊い命。/宝贵的生命。

○尊い犠牲。/值得敬重的牺牲。

○尊い教訓。/宝贵的教训。

2 無論「むろん」(名)

論じる必要のないほどはっきりしているさま。言うまでもなく。もちろん。

○無論そんなことはありえない。

当然不可能有那样的事。

○卒業式には無論私も出ます。

毕业典礼我当然参加。

○夫は無論、子どもも賛成してくれた。

不用说我丈夫，孩子也同意了。

○無論、君のせいではない。

当然不是你的过错。

3 理屈「りくつ」(名)

(1)物事の筋道。道理。

○理屈を言う。/讲道理。

○理屈に合っている。/合乎道理。

○物事は理屈どおりにはいかない。

凡事不能总照理走。

(2)無理につじつまを合わせた論理。こじつけの理論。へりくつ。

○理屈をこねる。/强词夺理。

○そんなことは理屈にもならない。

那根本不成借口。

○理屈と膏藥はどこへでも付く。

借口随时都可找，膏药到处都可贴。

4 敵「かたき」(名)

(1)勝負や争いの相手。競争相手。

○商売敵/(商业、生意上的)竞争对手。

○碁敵/围棋对手。

○恋敵/情敌。

(2)恨みのある相手。あだ。仇敵。

○敵をうつ。/报仇，复仇。

○不俱戴天の敵。/不共戴天之仇敌。

○敵をとられる。/遭到报复。

○江戸の敵を長崎で討つ。/张三的仇报在李四身上。

5 裸「はだか」(名)

(1)身に衣類を着けていないこと。また、その体。

○服を脱いで裸になる。

脱光衣服。

○いつまでも裸でいると風邪を引く。

老不穿衣服，会感冒的。

○上半身裸になる。

上半身裸体。

○裸の姿を人に見られた。

光着身子被人看见了。

(2)覆いや飾りがなく、むき出しであること。

○裸電球がともっている。

没有灯罩的灯泡亮着。

○裸ウマを乗りこなす。

能骑无鞍马。

○木々はすっかり裸になって寒々しい。

树叶落尽一派萧瑟。

(3) 包み隠しのないこと。

○裸になって話し合う。

坦率地交流意见。

○私たちは裸の付き合いをしている。

我们是推心置腹的朋友。

○裸になって話し合おうじゃないか。

让我们推心置腹地谈谈好不好？

(4) 財産・所持品などが全くないこと。

○事業に失敗して裸になる。

因事业失败而身无分文。

○株で大損して丸裸になった。

炒股遭受了大损，输了个精光。

○裸一貫から巨万の富を築く。

白手起家积累了巨额财富。

6 殻「から」(名)

(1) 動物の体や植物の実・種子を覆う固いもの。

○卵の殻/鸡蛋壳儿

○栗の殻/栗子皮

○貝の殻/贝壳儿

○もみ殻/稻壳

(2) 動物や昆虫が脱皮した後の外皮。抜け殻。

○セミの抜け殻/蝉蜕

○ヘビの殻/蛇蜕

○もぬけの殻/蜕下的皮。空壳子。

(3) 主要な部分や中身がなくなって用済みになったもの。

○缶詰の殻/罐头盒

○弁当の殻/饭盒

○茶殻/茶渣(煮泡过后的茶叶)

(4) 外界から自己を守る外壁。その外壁に守られた世界。

○殻に閉じこもる。/关在(封闭的)小房里。

○古い殻を打ち破る。/打破陈旧(而封闭)的小世界。

○殻を破る。/打破自我封闭。

一、次の質問に答えなさい。

1. どうして筆者は人生において友情ほど大切なものではなく、友人ほど尊くありがたいものはないと思っていますか。
2. どうして筆者は大人になってから、殊に三十歳を過ぎてから、心からの親友を見出すことはなかなか困難なことだと言っていますか。
3. どうすれば若くなくても真の友情を得ることができますか。
4. どうして友情における相互の信頼というものは、生涯変わることなく続くのですか。

二、次の文の下線を引いた漢字に振り仮名をつけなさい。

1. 若いうちに打算的になる人は、20代後半から不幸になるので、気をつけたほうがいいと思います。
2. 理屈を納得して覚えたことは忘れ難い性質がある。これは、記憶する時に左脳を働かせているからである。
3. 議論は客観的な論理や証拠に基づいた主張によって構成されるべきで、それ以外のものは無用である。
4. ご利用の際は、ゴミは必ず各自でお持ち帰りください。
5. 私たちは今地球環境に永続的に貢献していくために、積極的に環境活動を展開しています。
6. 長年苦楽を共にして戦ってきた二人の信頼関係は厚く、少々のことではびくともしなくなった。
7. お互いの違いを認め合い尊重する生き方が大きく社会を変えて住みやすい生きやすい社会へとつながっていく。
8. 努力に努力を重ねて彼はやっと年来の夢を果たした。
9. 花が好きだが、殊に赤いバラの花が好きだ。
10. 上辺だけの付き合いだけではダメで、素の自分を曝け出してはじめて本当の友人になれるのだと思う。